



2020年3月期 決算説明資料

2020年5月

タキロンシーアイ株式会社 証券コード 4215 東証第1部



目次

1. 決算実績・業績予想	P. 2
2. 成長戦略	P. 11



1. 決算実績・業績予想

1-1. 決算ハイライト

2020年3月期 実績

- 売上高139,432百万円（前期比△7.4%）
- 営業利益7,372百万円（同△18.8%）
- 中間配当13円 期末配当24円 合計37円を実施
（期初予想中間13円、期末14円）
- 当初連結業績予想を下方修正

	2019/3期 実績	2020/3期 期初予想	2020/3期 実績	（百万円） 前期比
売上高	150,650	151,000	139,432	△11,218
営業利益	9,080	9,300	7,372	△1,708
経常利益	9,200	9,400	7,611	△1,589
親株主に帰属する当期純利益	6,391	13,500	13,091	6,700

- 輸出の低迷、設備投資の減速等から製造業全体の生産活動は低調に推移、また、増税特需後の反動や台風・豪雨といった自然災害が相次いだ中で個人消費にも停滞感、新型コロナウイルスの急速な感染拡大により経済活動は制約され、先行き不透明感が継続し、全セグメントで減収減益
- 親株主に帰属する当期純利益について、連結子会社（ダイプラ株式会社）における固定資産（千葉県松戸市）の譲渡による特別利益の計上により大幅な増益となり、過去最高益を計上
- 創立100周年を迎えたこと、最高益を計上したことから、特別記念配当として10円の上乗せを実施

1-2. 2020年3月期決算実績

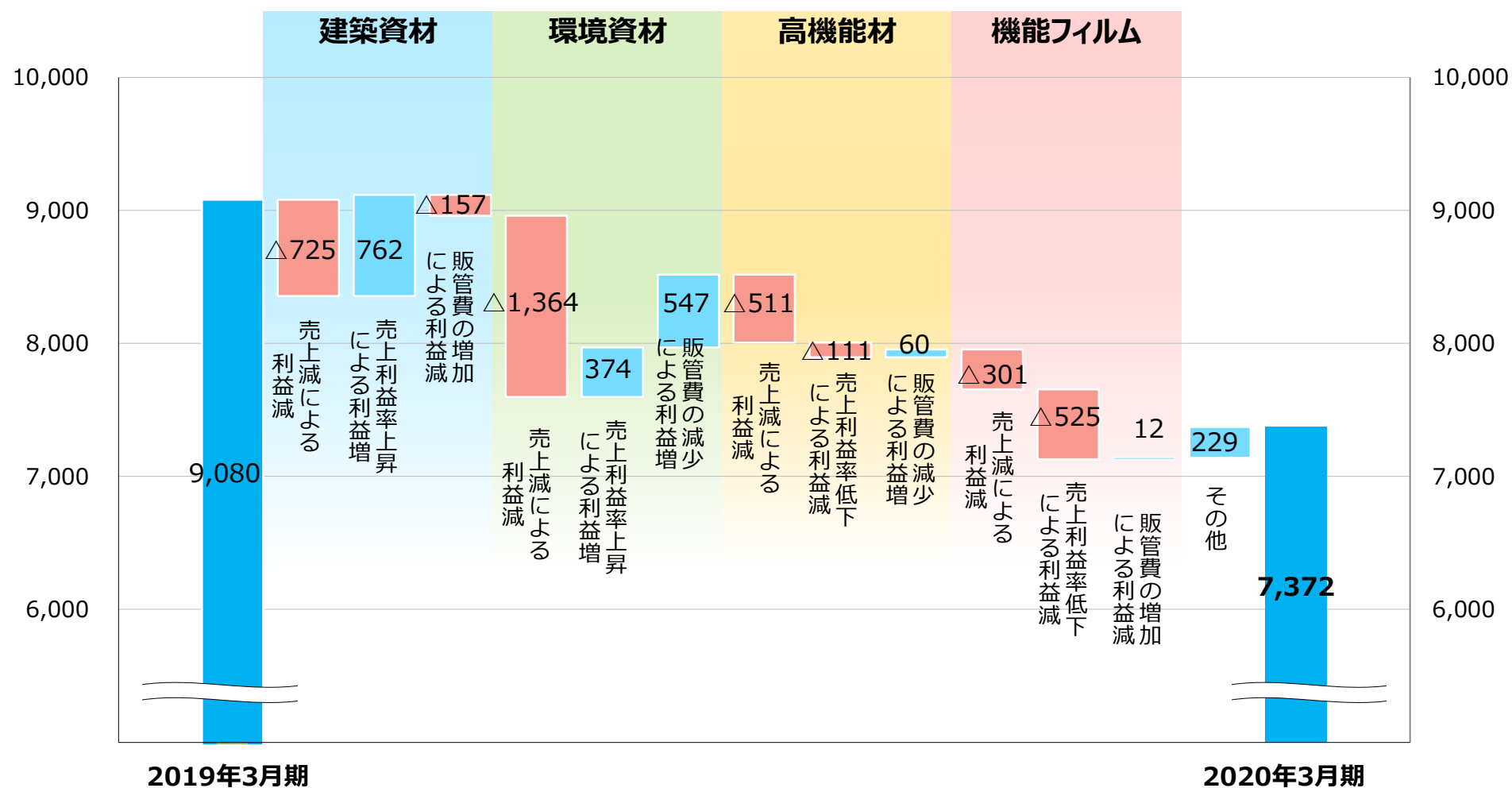
損益計算書

(単位：百万円、%)

	実績					
	2019年3月期 (累計)		2020年3月期実績 (累計)			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	150,650	100.0	139,432	100.0	△11,218	△7.4
売上総利益	41,018	27.2	38,799	27.8	△2,219	△5.4
販売費及び 一般管理費	31,937	21.2	31,427	22.5	△510	△1.6
営業利益	9,080	6.0	7,372	5.3	△1,708	△18.8
経常利益	9,200	6.1	7,611	5.5	△1,589	△17.3
親会社株主に帰属する 純利益	6,391	4.2	13,091	9.4	6,700	104.8
海外売上高	23,386	15.5	21,961	15.8		
1株当たり 当期純利益	65.62円	—	134.47円	—		
ROA	4.6		9.0			
ROE	8.6		15.8			

営業利益増減要因分析

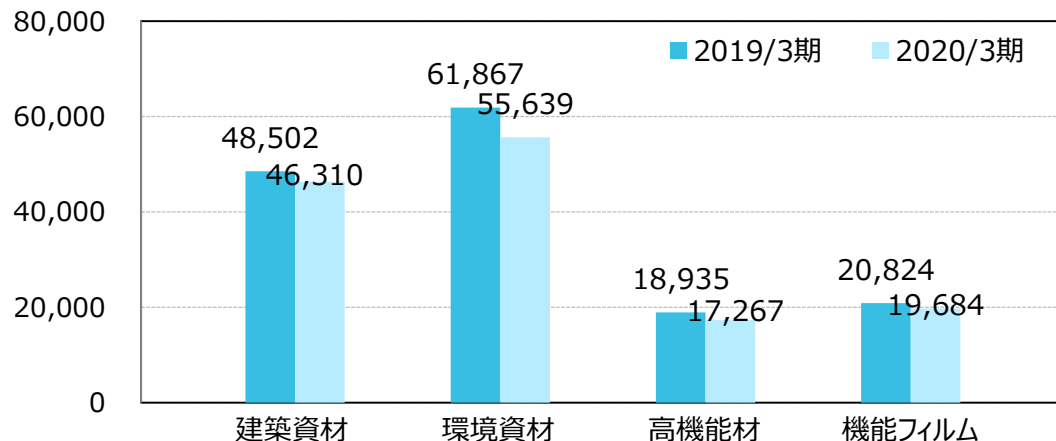
(単位：百万円)



セグメント別概況

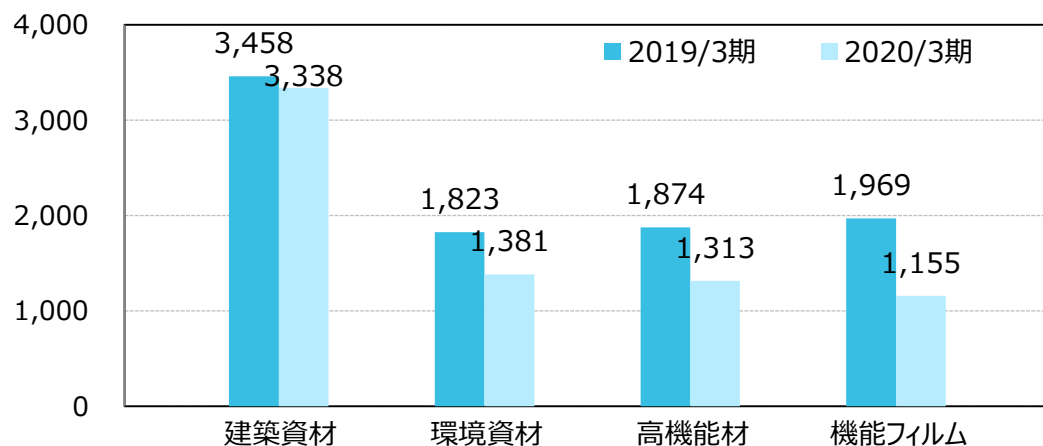
(百万円)

セグメント別売上高



(百万円)

セグメント別営業利益



建築資材事業セグメント（住設建材事業・床・建装事業）

- 住設建材事業はポリカーボネート製採光建材において、昨年度来の台風被害復旧需要の収束とその反動により減収。サイン事業は企業向けサインが大幅に落ち込み
- 床・建装事業は、床部門でマンション改修工事において売上低調。建装部門は海外について新型コロナ感染拡大影響による中国、アジア市場向け案件の遅延発生し売上減収

環境資材事業セグメント（アグリ事業・インフラマテリアル事業）

- アグリ事業は昨年度の災害復旧に伴う張替え需要が収束、3Qに入り全国的にハウス用資材の需要が減少し、主力の農業用被覆フィルムをはじめハウス関連資材全般で苦戦、減収
- インフラマテリアル事業は、台風被害による災害廃棄物の受入れに伴う土木シートの需要増、エンジニアリング分野が底堅い推移したものの、ハウエル管の販売や公共工事の物件遅延があり減収

高機能材事業セグメント（高機能材事業）

- 4Qに入り主力の工業用プレートの売上が半導体設備投資復調の兆しを受け増加も、それまでの落ち込みにより減収
- 各種エンブラ素材は、きめ細やかな地域販売施策の実行やPE板の物件獲得等で増収。マイクロモータは新規用途開拓、大型濾過板は大口の海外案件受注、超微粒子分散ビジネスはスマホ用途の特需もあり、各々増収。一方アセテート材、磁性材は輸出案件の減少で減収

機能フィルム事業セグメント（ボンセット事業・サンジップ事業）

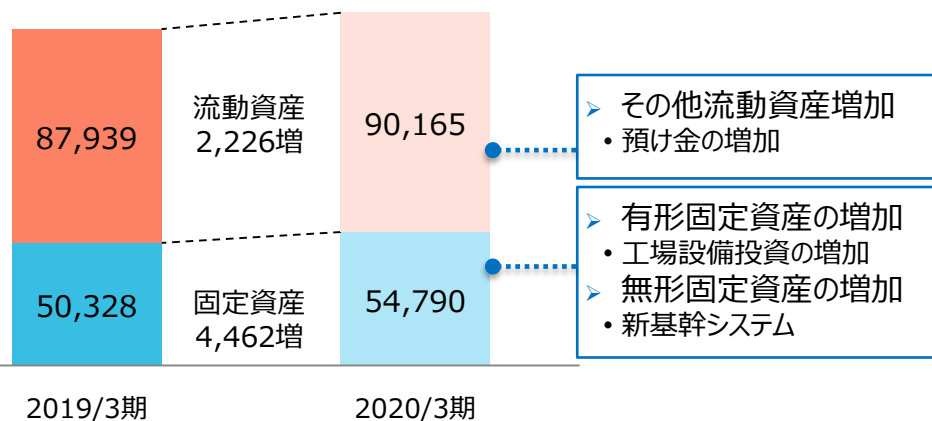
- ジッパーテープは日本国内、アジア、欧米を中心に堅調に推移し増収
- シュリンクフィルムは、3Q以降日本国内及び北南米市場共に堅調に推移も、2Qまでの落ち込みをカバーするには至らず、セグメント合計では減収

1-2. 2020年3月期決算実績

貸借対照表

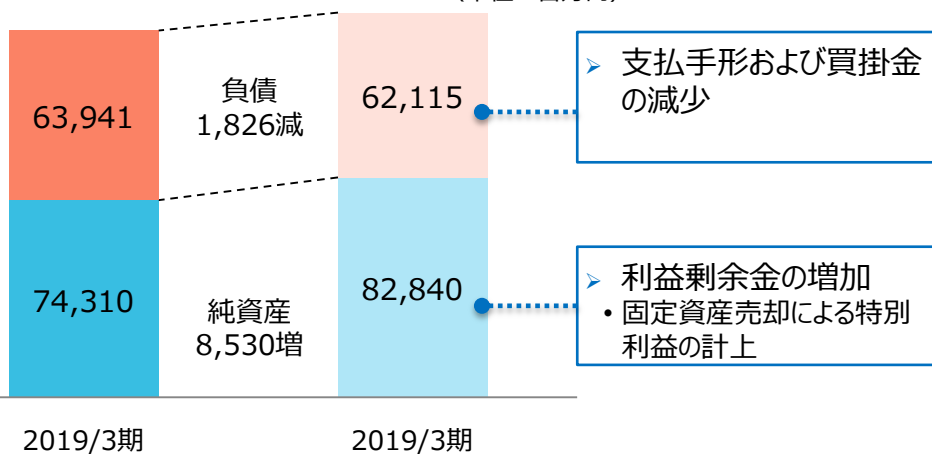
資産

(単位：百万円)



負債／純資産

(単位：百万円)



(単位：百万円)

	2019年 3月期	2020年 3月期	増減額
流動資産	87,939	90,165	2,226
現金及び預金	6,835	8,746	1,911
受取手形及び売掛金	53,455	45,218	△8,237
たな卸資産	22,628	22,645	17
その他	5,021	13,556	8,535
固定資産	50,311	54,790	4,479
有形固定資産	38,101	42,023	3,922
無形固定資産	2,367	2,956	589
投資その他の資産	9,842	9,810	△32
資産合計	138,251	144,956	6,705
負債合計	63,941	62,115	△1,826
(有利子負債残高)	4,911	5,085	174
純資産合計	74,310	82,840	8,530

(単位：%)

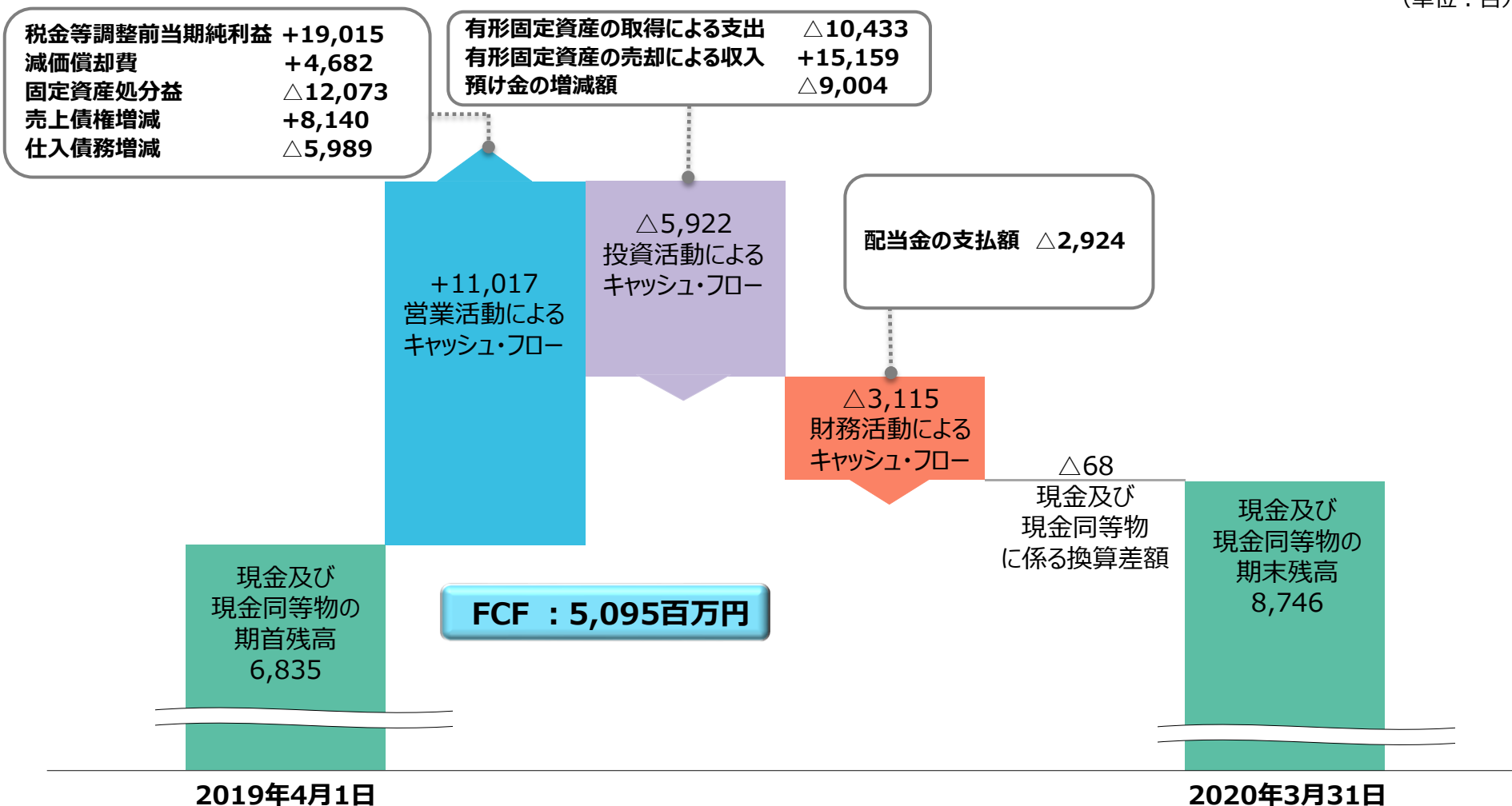
自己資本比率	52.6	56.1	3.5
---------------	------	------	-----

1-2. 2020年3月期決算実績

連結キャッシュフロー計算書

- フリー・キャッシュフローは2019年3月期の185百万円から4,910百万円増の5,095百万円

(単位：百万円)



売上高・利益推移



1-4. 2021年3月期業績予想

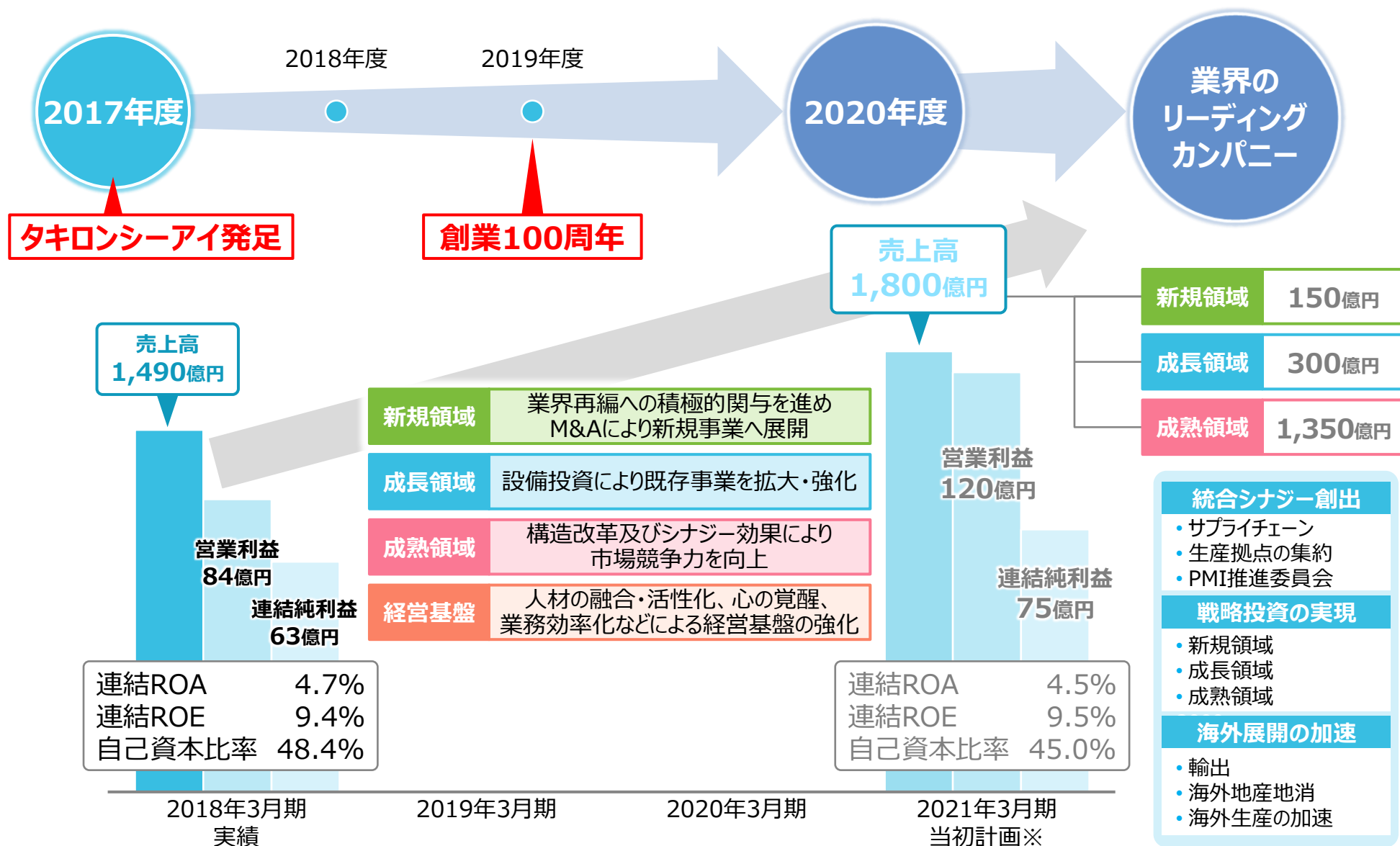
- 新型コロナウイルス感染症の収束時期やそれに伴う経済への影響が、現時点で不透明
- 国内においては、緊急事態宣言の影響で、建設・土木事業の遅延や中断、生産調整等が生じることにより、プラスチック加工品需要の一時的な落ち込みが予想される
- 海外においては各国政府が発令しているロックダウンや行動規制により、総じて生産活動が低下

2021年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定が困難であることから、公表しておりません。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点ですみやかに開示いたします。



2. 成長戦略

2. 現中期経営計画概要



※2021年3月期の現時点での連結業績予想については、現時点で合理的な業績予想の算定が困難であることから、未公表。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点ですみやかに開示予定

2-1. 成熟領域：構造改革～統合シナジー抽出

生産体制の再構築

① 採光建材の生産集約



- 3社に亘るポリカーボネート事業をタキロンシーアイ揖保川事業所に集約化

投資金額20億円⇒
収益効果8億円/年

② 関東生産拠点の再構築



- 遊休の東京第一工場をハウエル管増産拠点として再開発

投資金額27億円⇒
収益効果3億円/年

③ 九州工場の移管



- 滋賀、栃木工場への生産集約

④ 研究拠点統合



- 神戸研究所を滋賀研究所に移転統合、総合研究所とする

販売体制の最適化

建築資材事業本部

日本ポリエステル
建材事業
環境資材事業

販売を移管

タキロン
エンジニアリング
に移管

タキロンシーアイ

床・建装事業部

住設建材事業部

日本ポリエステル
建材事業（FRP生産）

タキロンKCホームインフラ・ブル・ブメント
HC向け建築資材事業

環境資材事業本部

大日本プラスチックス

建材事業

土木資材事業

タキロンプロテック

景観用資材事業

農業・園芸用資材事業

一般建材

HC向け

合併

タキロン
エンジニアリング
へ移管

タキロンシーアイ

アグリ事業部

インフラマテリアル事業部

ダイプラ2018/10/1～

土木資材事業
環境資材事業
工業資材事業
産業資材事業

タキロンエンジニアリング

環境資材事業

管更生事業

2-1. 成熟領域：構造改革進捗状況

2019年3月期は前年比約7億円改善。2020年3月期は反動により営業利益は落ち込むも、不採算グループ→低収益グループ→中高収益グループへの移行は確実に進展

	2018年3月期 実績		2019年3月期 実績		2020年3月期 実績
中高収益 グループ 営業利益率 5%以上	63億円 約11% 12部門	+8億円 +2	71億円 約8.8% 14部門	△3億円 +3	68億円 約7.9% 17部門
低収益 グループ 営業利益率 5%未満	20億円 約1.8% 17部門	△3億円 採算改善 +1	17億円 約1.8% 18部門	△11億円 採算改善 △4	6億円 約1.5% 14部門
不採算 グループ 営業赤字	△4億円 約△1.8% 7部門	+1億円 採算改善 △2	△3億円 約△2.0% 4部門	△4億円 0	△7億円 約△6.3% 4部門
本社口・連結消去額	5億円	+1億円	6億円	+1億円	7億円
	84億円	+7億円	91億円	△17億円	74億円

2-2. 成長領域：海外展開の加速

BONLEX EUROPE [イタリア ヴェネト]

生産能力増強

現地生産にシフト、短納期、小ロット対応による大手顧客要望対応スピードアップ



上海サンプラス[中国 上海]

生産能力増強

新設ライン設備投資により能力を増強、既存設備改良による生産スピードアップ



Bonset America [アメリカ ノースカロライナ]

生産能力増強

PETシュリンクフィルムの需要増に対応した生産能力増強投資



海外売上高合計

2016年度
16%



2020年度
20%以上

投資金額
25億円
収益効果
6.5億円/年

2-3. 新規領域：M&A

- (株)ヘキサケミカルを2021年4月をめどにグループ化（2019/11発表）タキロンシーアイのプラスチック加工技術と、同社機能性コンパウンド技術などの融合による技術・製品開発における相乗効果の発現に期待
- 2019/9天昇電気の株式を917,800株取得（発行済株式総数の5.4%）モビリティ分野へ進出強化

ヘキサケミカルグループ化



主要製品

株式会社ヘキサケミカル

所在：大阪府東大阪市

設立：1971年5月

資本金：171百万円

従業員数：ヘキサグループ363名（国内）

事業概要：着色剤並びに機能性コンパウンドの“設計”および“加工”



コンパウンド



ドライカラー

グループ化（2021年4月）



技術の融合

（高充填配合技術/セルロースナノファイバー/複合材料/
表面処理技術）

既存領域

建築 農業 土木 工業製品
包材

新製品

新規領域

モビリティ
分野

ヘルスケア
分野

天昇電気の株式取得

TENSHO

6776：東証第2部
内外装等のプラスチック
自動車部品が柱

出資：
5.4%

連携強化

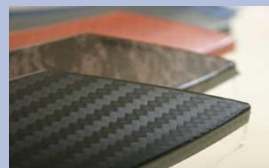


戦略分野への進出

モビリティ分野



車載ディスプレイ

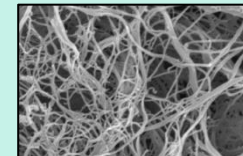


内装材

その他の分野



雨水貯留浸透槽拡販



新規製品共同開発
（セルロースナノファイバー製品他）

2-4. 経営基盤：ESG経営の推進（マテリアリティ）

経営理念

1. 私達はつねに地球環境保護をこころがけ、企業の永続的な発展成長をめざします。
2. 私達はお客様に満足していただける品質と価格を提供し、社会に貢献します。
3. 私達は社会の変化を先取りし、未知への挑戦に情熱をもやします。
4. 私達は人を大切にし、個性と創意を尊重します。
5. 私達は正当な利潤を追求し、公正な配分につとめます

事業を通じた社会課題の解決

自然災害の多発・激甚化

ライフスタイルの多様性

- 利便性・豊かさの追求

少子高齢化

ダイバーシティ

多元化する労働問題

- 労働人口の減少
- 人手不足
- 労働環境

地球環境の悪化

- 資源・エネルギーの制約
- 海洋プラスチック問題への対応
- 不安定な農業生産

マテリアリティ

- ・価値創造を支える企業風土の醸成
- ・プラスチック加工技術の深化
- ・ダイバーシティの推進
- ・充実人生経営宣言
- ・海洋プラスチック問題への対応
- ・CSR調達の推進
- ・環境負荷の低減
- ・環境配慮型製品の拡大
- ・コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント対応
- ・コーポレートガバナンスの充実

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

ESG経営（環境性、社会性、ガバナンス）の推進



2-4. 経営基盤

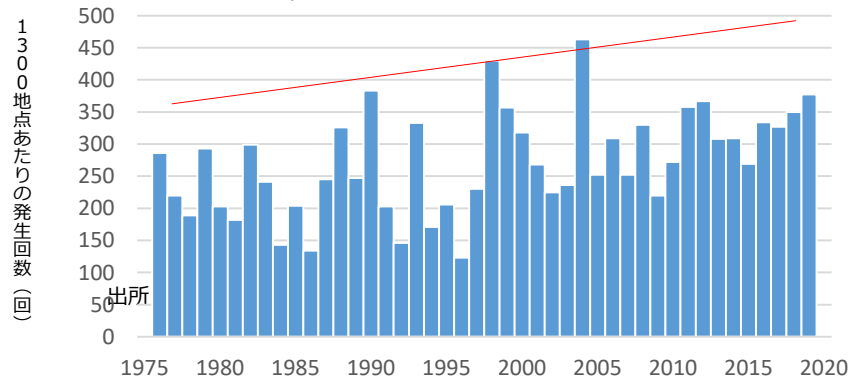
① 事業を通じた社会課題の解決 ～防災・減災、既設インフラ老朽化対応

- タキロンシーアイグループが保有するインフラ関連資材を連携し社会インフラの早期復旧や強靱化に貢献

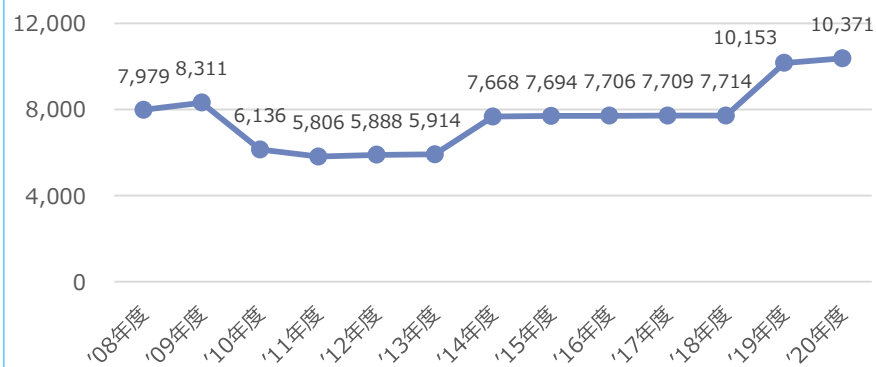
気候変動による大雨等の増加、治山治水公共支出増加

- 気候変動に伴い頻発・激甚化する水害・土砂災害に対し、治山治水対策公共支出予算は増加傾向が継続

【アメダス】1時間降水量50mm以上の年間発生回数
トレンド=28.9 (回/10年)



国土交通省 水管理・国土保全局 治山治水予算推移
(単位: 億円)



出所: 国土交通省

災害の早期復旧/未然防止対策

ハウエル管



- 自然災害で破壊された管路の復旧において短工期化を可能とし、実績を拡大

遮水シート



- 台風で大量発生した災害ごみの処分などに活用

軽量パネル止水板

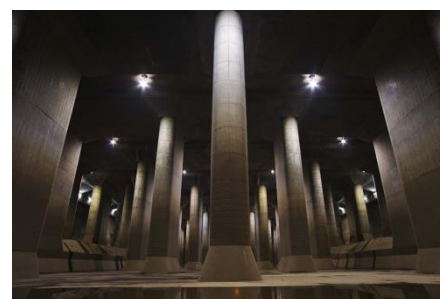


- ゲリラ豪雨等による浸水被害から生活インフラを守る止水板は今後マンション・家屋などで需要拡大

大規模自然災害の備えへの対応

- 遮水シートや止水材が採用され河川の氾濫抑制に貢献
- 国土強靱化に備え今後のインフラ整備加速が想定

首都圏外郭放水路



ハツ場ダム



2-4. 経営基盤

②事業を通じた社会課題の解決 ～採光建材開発

- ポリカーボネート樹脂製大型ジョイント式システムパネル材〈ルメカーボシリーズ〉（2009年～）の開発・拡販を推進
- 断熱性能・自然採光により熱エネルギー商品を削減

特長

- ① 軽量で高い強度
 - － 透明プラスチック材料中最高の衝撃強度
✓アクリルの約40倍、硬質塩化ビニルの約20倍
- ② 自然光を採り入れつつ熱損失を大幅にカット
 - － 断熱性能は従来ガラス採光比5倍
- ③ 耐候性
 - － 直射日光、風雨、気温などによる影響を受けにくい樹脂
- ④ 耐熱・耐寒性
 - － 実使用温度領域が-40℃～+120℃と広い温度域に使用

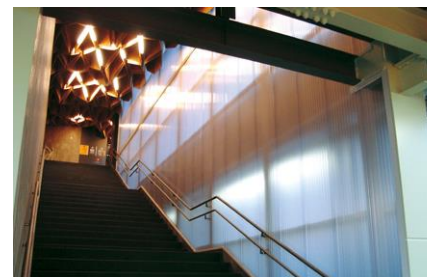
	ルメウォール	網入りガラス
熱貫流率	1.2W/(m ² K)	5.8W/(m ² K)
電力消費量	17,574kWh/年	128,071kWh/年
電力供給CO ₂ 換算量	6,696kg/年	48,795kg/年
指数（ガラス製100）	13.7	100

低炭素杯2016 環境大臣賞（企業部門・金賞）
昼光利用による建築物の低炭素化の推進



ルメウォール

- 中空ハニカム構造で、軽量・高剛性・高断熱性を兼ね備えたシステムパネル材



2-4. 経営基盤

③事業を通じた社会課題の解決 ~災害支援、ごみ拾い活動、コロナ対策支援

災害支援（2019年台風19号）

- 栃木県佐野市で災害ボランティアに参加



水辺のクリーンエイド

- 荒川や箕面での清掃活動ボランティアに参加



コロナ対策支援

- クリアパーテーションをたつの市に寄贈



プラスチックテクノロジーで人と地球にやさしい未来を創造する

IRに関するお問い合わせ先

タキロンシーアイ株式会社 経営企画部

電話：03-6711-3718

e-mail：m-sekine@takiron-ci.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。